

第 II 回 OPI 国際学術研討会(台湾大会)議程

主題 双方向教育における教師と学生のあり方

(雙向互動教学中教師與學生所扮演的角色)

主 催 者:淡江大学日本語文学系

場 所:淡江大学淡水校園驚聲國際會議廳(新北市淡水區英專路 151 号)

時 間:2017 年 8 月 4 日・5 日(金・土曜日)

プログラム(暫定) 20170612

一日目 2017 年 8 月 4 日(金曜日)	
08:20-	開場 受付
08:50-09:10	開幕式 開会の辞 司会者 王 天保(淡江大学助理教授) 張 家宜(淡江大学学長) 鳴田 和子(2017 年第 II 次 OPI 台湾大会顧問) 塩沢 雅代(日本台湾交流協会文化室主任)
09:10-10:10	基調講演 1 司会者:曾 秋桂(淡江大学教授兼学科主任・村上春樹研究センター長・ 2017 年第 II 次 OPI 台湾大会実行委員長) 講演者:佐藤 学(学習院大学教授) テーマ: 学びの共同体における学びの再定義と日本語教育
10:10-10:30	ティータイム
10:30-11:30	基調講演 2 司会者:潘 慧玲(淡江大学教授兼学習與教学中心執行長) 講演者:張 輝誠(台湾中山女子高級中学教師、「学・思・達」創業者) テーマ:學思達隨時開放教室,讓世界走進來
11:30-12:20	世紀大対談:佐藤 学教授・張 輝誠博士・潘 慧玲(淡江大学教授兼学習與教学中心執行長) 司会者:張 鈿富(淡江大学教授兼教育学部学部長)
12:20-13:30	昼食(驚聲國際會議場内) ポスター発表
ポスター発表 (驚聲國際會議場 2 階にて)	<ul style="list-style-type: none"> ① 池田隆介(北九州市立大学教授) 学術文章執筆能力の向上に貢献するルーブリック式レポート評価表 日本人大学生のレポート自己評価、及び、ピアレビューを通じて ② 伊勢みゆき(新宿日本語学校) 日本人との「つながり」の中でのみ日本語の会話は上達するか —日本語学校におけるカリキュラムと会話能力の関係を探る ③ 内田康(淡江大学助理教授) 百人一首を用いた日本語-文学-文化体験学習連結の試み —淡江大学における事例の実践報告 ④ 大津友美(東京外国語大学准教授) 会話に参加するための能力を考える授業 —第二言語話者が参加する会話の分析を通して ⑤ 黄聖文・黄鴻銘・林明萱・李姿蓉(銘伝大学非常勤講師・銘伝大学修士課程) 台湾の A1 レベル日本語学習の日本語使用場面に関する一考察

	<p>ー高校における日本語クラス履修者を対象に</p> <p>⑥ 坂井菜緒（武蔵野大学非常勤講師）初級日本語クラスにおけるビジターセッションの意義と はー日本語学習者とビジターの学びの考察</p> <p>⑦ 田邊充博（桜花日語学園）参加者が「対話」によって創る教室活動とはーある初級日本語 教室の実践から見る</p> <p>⑧ 中谷規子（ICT ビジネスジャパニーズ講師） 日本語学習者の語サーチ</p> <p>⑨ 持田祐美子・濱畑静香・永田由紀・永田沙織（平沢大学助教授・皇学館大学助教・高麗大学 大学院博士課程・日本国際交流基金非常勤講師） 「どう・どんな質問」による効果的な発話抽出のー考察</p> <p>ーOPI テスター訓練生のインタビューデータをもとに</p>		
<p>パネル I: 「プロフィシエンシーの視点からみた世界の日本教育現場」</p> <p>司会者: 頼 振南(輔仁大学教授兼学部長・台湾日本語文学会理事長・国際医療翻訳協会理事長)</p>			
13:30-14:30	<p>プロフィシエンシーの視点からみた世界の日本教育現場</p> <p>韓国代表 川口 慶子（崇実大学招聘教授）</p> <p>ロシア代表 阿部 弘（国立研究大学高等経済学院上級講師）</p> <p>香港代表 上田 早苗（香港中文大学高級講師）</p> <p>ブラジル代表 向井 裕樹（ブラジル大学文学部科長）</p> <p>Q&A 20分</p>		
14:30-14:40	ティータイム		
14:40-17:10	<p>OPI ファミリアライゼーション/OPI リフレッシュワークショップ</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)</p> <p>OPI ファミリアライゼーション</p> <p>牧野 成一先生（プリンストン大学名誉教授・ OPI トレーナー）</p> </td> <td style="width: 50%;"> <p>司会者 陳 姿菁(開南大学副教授)</p> <p>OPI リフレッシュワークショップ</p> <p>三浦 謙一先生（フランクリン&マーシャルカ レッジ教授・OPI トレーナー）</p> </td> </tr> </table>	<p>司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)</p> <p>OPI ファミリアライゼーション</p> <p>牧野 成一先生（プリンストン大学名誉教授・ OPI トレーナー）</p>	<p>司会者 陳 姿菁(開南大学副教授)</p> <p>OPI リフレッシュワークショップ</p> <p>三浦 謙一先生（フランクリン&マーシャルカ レッジ教授・OPI トレーナー）</p>
<p>司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)</p> <p>OPI ファミリアライゼーション</p> <p>牧野 成一先生（プリンストン大学名誉教授・ OPI トレーナー）</p>	<p>司会者 陳 姿菁(開南大学副教授)</p> <p>OPI リフレッシュワークショップ</p> <p>三浦 謙一先生（フランクリン&マーシャルカ レッジ教授・OPI トレーナー）</p>		
17:10-17:30	連絡事項、各研究会紹介等 （池畑 裕介 2017 年第 II 回 OPI 台湾大会事務局長）		
18:00-19:30	懇親会 （福格大飯店 淡水區学府路 89 号 http://www.regalees-hotel.com.tw ）		

二日目 2017年8月5日(土曜日)

場次	研究発表 第一会場	研究発表 第二会場	研究発表 第三会場	研究発表 第四会場	研究発表 第五会場	研究発表 第六会場
発表主題	対話活動	交流授業	会話分析	OPI判定・実施	縦断研究	日本語学
コメンテーター 兼司会者	許 均瑞 銘伝大学 副教授	施 信余 淡江大学 副教授	林 慧君 台湾大学 教授	堀越 和男 淡江大学 副教授	林 玉恵 銘伝大学 副教授	蘇 克保 東呉大学 副教授
09:00-09:30	橋尾 晋平 同志社大学 博士課程 初級日本語学習者の発表する能力・話し合う能力の向上を目指す日本語版「サンプル・ディベート」の提案	工藤 節子 東海大学 助理教授 交流活動における学習環境デザイン要件—あるプロジェクト型交流を事例として	陳 姿菁 開南大学 副教授 日本語学習者における発話分析 OPI 的概念を取り入れた授業を例に	小島堅嗣 山中峰央 後藤歩 培材大学校助教授・韓国外国語大学校博士課程 OPI の複数テスターによる判定要因の分析 -判定者間の信頼性向上に向けての施策	世良 時子 成蹊大学 常勤講師 CLD 生徒であった大学生の日本語能力評価に関する考察—OPI による縦断データの分析から	郭 獻尹 東呉大学 非常勤講師 台湾人学習者を対象にした「そうですか」のイントネーション習得
09:30-10:00	中村 香苗 淡江大学 助理教授 フィッシュボウル式異文化間ディスカッション訓練の成果—Li 話者の調整行動の変化を中心に	張 瑜珊 東海大学 助理教授 プロジェクト型交流における言語行動の一考察	黄 英哲 台中科技大学 副教授 上級段階で学ぶ台湾人日本語学習者の口頭伝達力について	大隅 紀子 堀 恵子 東京大学非常勤講師・東洋大学非常勤講師 上・超級話者の発話を引き出すための談話展開と効果的な質問	久保田 佐和子 文藻外語大学 常勤講師 OPI を用いた台湾人日本語学習者の発話縦断調査 文藻外語大学を例として	劉 志偉 首都大学 助理教授 撥音便の周辺形式について—ラ行音の撥音化に注目して
10:00-10:30	荒井 智子 銘伝大学 助理教授 学生の思考力の拡散プロセスを重視した作文の授業—ピア・レスポンスの読み手側に注目して	落合 知春 山口 知才子 田代 奈緒子 梅村 弥生 イーストウエスト日本語学校専任講師・同非常勤講師 他者とのかかわりの中で学ぶ教室活動—環境問題を通して	萩原 孝恵 池谷 清美 山梨県立大学 准教授・チューラーロンコン大学助教授 フィラーとの共起にみる舌打ちと笑い—タイ人日本語学習者の発話を表象する非言語行動の特徴	早矢仕 智子 韓国大真大学 校助教授 語ることは何が難しいのか—上級タスク〈ナラティブ〉の抽出方法—(仮題)	小林 安那 神谷 英里 釜山外国語大学助教授・ハノイ国家大学常勤講師 やりとり会話授業におけるピアフィードバックの利点と問題点 学生へのアンケートとインタビュー結果から	齊藤 眞理子・三国 純子 文化学園大学 教授 意見述べに見られる特徴的な語彙・表現

10:30-10:40	ティータイム					
場次	研究発表 第七会場	研究発表 第八会場	研究発表 第九会場	研究発表 第十会場	研究発表 第十一会場	研究発表 第十二会場
発表主題	身体表現活動	評価	教室活動	スキル判定と 教育	オンライン教 育	日本語学
コメンテーター 兼司会者	董 莊敬 (文藻外語大学 副教授)	李 偉煌 (靜宜大学副 教授兼主任)	范 淑文 (台湾大学教 授兼主任)	林 立萍 (台湾大学教 授)	邱 若山 (靜宜大学副 教授)	黄 英哲 (台中科技大 学副教授)
10:40-11:10	清水 泰生 同志社大学 嘱託講師 身体活動とプロ フィシェンシー について—肉体 が変われば日本 語・教授法も変 わる	頼 錦雀 東呉大学 教授 日本語学習者 に求められる 異文化交流能 力の育成と測 定—台湾人の 場合	古田 梨乃 山田 航司 開南大学専任 講師・同交換 研究員 「日本語会話 クラスにおけ る効果的な教 室活動—文法 を使っていか に話させるか	上田 早苗 香港中文大学 高級講師 香港の上級日 本語学習者の 書く力を測る	落合 由治 淡江大学 教授 表現史から見 た日本語 MOOCS の位 置付け	蔡 季汝 樹人医護管理 専科学校 助理教授 日本語学習者 の可能表現に おける理解状 況 中国語を 母語とする場 合
11:10-11:40	堀越 和男 淡江大学 副教授 日台遠隔協働授 業の活動とその 実態—「協働創 作演劇」におけ る学びについて	向井 裕樹 ブラジリア大 学准教授 ブラジルの高 等教育におけ る日本語教育 —口頭運用に 関する教室活 動と評価	王 嘉臨 淡江大学 助理教授 文学授業を活 性化する言語 活動の構築— 淡江大学を事 例として	林 雅芬 何 月華 台中科技大学 助理教授・淡 江大学兼任講 師 大学通訳教材 の開発実践に ついて	曾 秋桂 淡江大学 教授 台湾初 MOOCs「非常 村上春樹」を 実践例として	堀内 仁 国際教養大学 准教授 中国語母語話 者の日本語丁 寧体動詞の発 達—コーパス に基づく分析
11:40-12:10	張 桂娥 東呉大学 副教授 アクティブ・ラ ーニング型授業 における多重評 価システムの設 計をめぐる 台湾東呉大学日 本語学科4年次 選択科目「時事 日本語」の実践 を例に	関口 要 実践大学 助理教授 台湾の大学の 日本語中上級 会話クラスに おける定期試 験の評価方法	吳 翠華 林 淑璋 元智大学副教 授・同助理教 授 児童文学指導 の新しい試み —子供の日本 文化体験キャ ンプを取り入 れて		宇田 左近 ビジネス・ブ レークスルー 大学副学長 オンラインに よる大学教育 のフロンティ ア	ラッタナボン ピンヨー プラッチャヤ ポーン 大阪大学博士 課程後期 推量表現にか かわる認識的 モダリティー モダリティー形 式に終助詞 「よ」「ね」 が付加されて いる場合
12:10-13:10	昼食(驚声国際会議場内)		ポスター発表			

<p>ポスター発表 (驚声国際会議 場 2 階)</p>	<p>① 池畑 裕介(中國文化大学推廣教育部教学主任) 絵本セラピーを使った中上級会話の実践—癒しの教室を目指して</p> <p>② 小森 和子(明治大学准教授) 「話す」と「書く」という産出方法の違いが談話構造に与える影響 —日本語学習者による意見を述べる談話の比較</p> <p>③ 虞 安寿美・釜淵 優子(中國文化大学推廣教育部兼任講師・YUMA Teaching Japanese Firm 台湾代表・関西学院大学非常勤講師) 「ビジネス場面で本当に求められる発話能力を考える —面接時の自己PRなどを題材にして</p> <p>④ カンジャマーボンクン ・サティダー(大阪大学) タイ語の疑問文文末形式 “ru w” で見た「のだ」疑問文 —問い返し疑問文をめぐって</p> <p>⑤ 芝田 沙代子(東吳大学博士課程) アクティブラーニングを目指したJFL日本語教育の可能性 —インターネットのチャットを通して</p> <p>⑥ 蘇 彦如(中國文化大学推廣教育部兼任講師) モチベーション研究における動機付け —台湾の高校における第二言語教育を中心として</p> <p>⑦ 陳 文瑤(大葉大学副教授) 『できる日本語』で話せる力を育成する試み</p> <p>⑧ 廖 育卿(東吳大学博士課程) ポートフォリオを利用した日本語指導法の一試み —自律学習を目指して</p>
<p>パネル 2</p>	
<p>パネルテーマ 2: 「『つながり』重視の日本語学習パラダイムシフト」 司会者:孫 寅華(淡江大学副教授)</p>	
<p>13:10-14:30</p>	<p>パネルディスカッション 1 20分 講演者:陳 淑娟(東吳大学教授) 「『つながり』重視の日本語学習パラダイムシフト:台湾の現状とこれから」</p> <p>パネルディスカッション 2 20分 講演者:嶋田 和子(アクラス日本語教育研究所代表理事) 「『つながり』重視の日本語学習パラダイムシフト:日本の現状とこれから」</p> <p>パネルディスカッション 3 20分 講演者:三浦 謙一(フランクリン&マーシャルカレッジ教授) 「『つながり』重視の日本語学習パラダイムシフト:アメリカの現状とこれから」</p> <p>Q&A 20分</p>
<p>14:30-14:45</p>	<p>ティータイム</p>
<p>14:45-15:45</p>	<p>OPI デモンストレーション 鎌田 修(南山大学教授) 司会者:羅 曉勤(銘伝大学副教授)</p>
<p>15:45-16:00</p>	<p>ティータイム</p>
<p>16:00-17:00</p>	<p>題名 2017 年第 II 回発表成果と展望—成果共有を目指して 総纏め兼司会者 頼 錦雀(東吳大学教授) パネリスト(会場一) 中村 香苗(淡江大学助理教授) パネリスト(会場二) 施 信余(淡江大学副教授) パネリスト(会場三) 陳 姿菁(開南大学副教授) パネリスト(会場四) 羅 曉勤(銘伝大学副教授)</p>

	<p>パネリスト(会場五) 落合 由治(淡江大学教授・2017年第Ⅱ次 OPI 台湾大会副実行委員長)</p> <p>パネリスト(会場六) 池畑 裕介(中国文化大学推廣教育部主任・事務局長)</p>
17:00-17:10	<p>閉会式 閉会の辞 曾 秋桂(淡江大学教授兼学科主任・村上春樹研究センター長・2017年第Ⅱ次 OPI 台湾大会実行委員長)</p>
17:20-18:30	<p>晚餐交流会(驚声国際会議場内)</p>
	<p>主催 : 淡江大学日本語文学科</p> <p>共催 : (国内) 科技部・中国文化大学推廣教育部・ILI 国際語文中心・台湾日本語文学会・台湾日本語教育学会・淡江大学村上春樹研究センター</p> <p>(国外) 日本語 Proficiency 研究会(JALP: Japanese Association of Language Proficiency)・日本語研究会</p> <p>協賛 : 九州 OPI 研究会・浜松 OPI 研究会・韓国 OPI 研究会・ACTFL</p> <p>後援 : 日本台湾交流協会・</p> <p>+</p> <p>参加申し込みサイト http://www.harukistudy.tku.edu.tw/news/news.php?Sn=173</p> <p>① 大会内容お問い合わせ</p> <p>電話 +886-2-23567356 内線 7331(池畑事務局長に繋がります)</p> <p>メール 池畑 裕介 kumayujie27@gmail.com</p> <p>② 参加受け付けと参加関係お問い合わせ</p> <p>メール 落合 由治 098184@mail.tku.edu.tw, taiwan_nichigo@yahoo.co.jp</p> <p>電話 +886-2-26215656 内線 2340・2341・2958(淡江大学日本語学科まで日本語も可能です)</p>